

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第11週 （3月11日～3月17日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第10週の1.79から第11週は1.06と減少しています。8週連続で減少していますが、引き続き県全域から報告があり、須崎、高知市、幡多で急減、中央西で減少していますが、安芸で急増しています。

学校等における集団発生の報告では学級閉鎖1件の報告があります。引き続き注意してください。

学校等における集団発生			※感染症情報収集システム					
保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第11週			1				1
	累計		4	46	2	1	2	55
学年閉鎖	第11週							0
	累計	2	11	7	8	7	9	44
休校	第11週							0
	累計				1			1

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が44件、インフルエンザB型が4件の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「インフルエンザ」として搬入された検体から *Influenza virus A H1pdm09* が1例、*Influenza virus A H3 NT* が1例検出されています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2019年第6週～第10週）では、AH3の検出割合が最も多く72.5%、次いでAH1pdm09が24.8%、B（ビクトリア系統）が1.7%、B（山形系統）が1.0%の順でした。

減少してきていますが、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけ、症状がある方は、咳エチケットに心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も有効です。感染力は非常に強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

<予防方法> 手洗いと咳エチケットを心がけましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の**咳エチケット**に心がけてください。

- （1）普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- （2）咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- （3）手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。

●厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infulenza/index.html

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第10週の4.87から第11週では4.50と横ばいです。県全域から報告があり、中央西で減少していますが、安芸、須崎で増加しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも21例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス5例、ロタウイルス5例、細菌の病原性大腸菌2例、カンピロバクター属菌2例（第10週）、大腸菌とカンピロバクター属菌の同時検出1例の他、ノロウイルス流行中や胃腸炎が多いとの情報があります。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となること

もあり注意が必要です。

<予防方法> 感染予防の基本は手洗いです

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は第10週の2.43から第11週では3.30と増加しています。県全域から報告があり、須崎、安芸で急増、高知市、幡多で増加し、特に須崎では警報値を、高知市では注意報値を超えています。

病原体検出情報では、臨床診断名「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」として搬入された検体から *Streptococcus pyogenes Untypable* が1例検出されています。

この病気はA群レンサ球菌による上気道の感染症です。典型的な症状は、2～5日の潜伏期を経て、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、苺状の舌などがみられます。1週間以内に症状は改善しますが、まれに肺炎や髄膜炎、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などを起こすこともありますので注意してください。

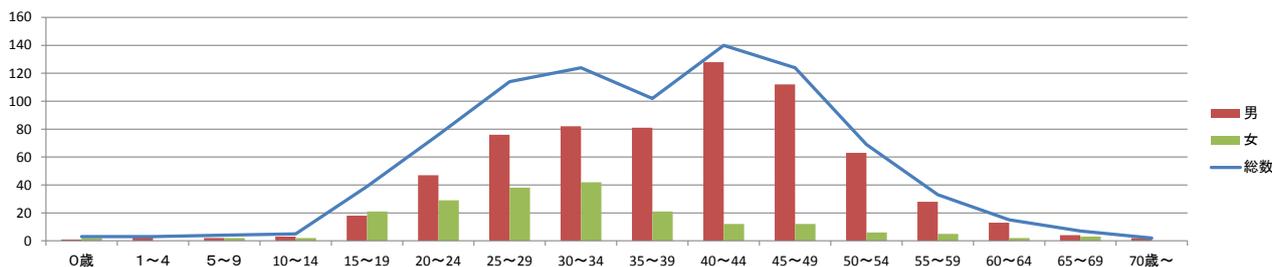
<予防方法> 手洗い、咳エチケットが有効です

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」あるいは細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路になります。患者との濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットを心掛けましょう。

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019年第1週～10週の報告数は860人となっており（2018年の同時期全国で4人）、94%（806人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に（男性663人、女性197人）に報告数の多い状態が継続しています。

2019年累積風しん報告数(年齢別・性別)



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、大阪府、福岡県以外に埼玉県、兵庫県、愛知県、三重県、北海道など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなど今後さらなる注意・予防に務めましょ

う。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ

感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染

潜 伏 期 間 : 2～3週間程度

感染性のある期間: 発疹のでる7日前から発疹出現後7日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第20号（高知県衛生研究所）30～50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻しんに気を付けて！

麻しんについては、平成27年3月27日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019年第1週～10週の全国の麻しんの報告数は304人と（2018年の同時期全国で10人）前年と比較して多い状態が継続しています。特に、関西地方で麻しん患者数の増加がみられ、今後麻しん患者の移動等により、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。

予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成31年3月4日付け30高健対第1886号「麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻しんの可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻しんの罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻しんを意識した診療をお願いいたします。
- ② 麻しんを疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻しん患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第12条第1項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻しんの感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

●医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月（国立感染症研究所疫学センター）

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

●麻しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

●麻しん（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>



☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられます。暖かくなってきましたので、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。

マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。

地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。

活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）



急増



増加



横ばい



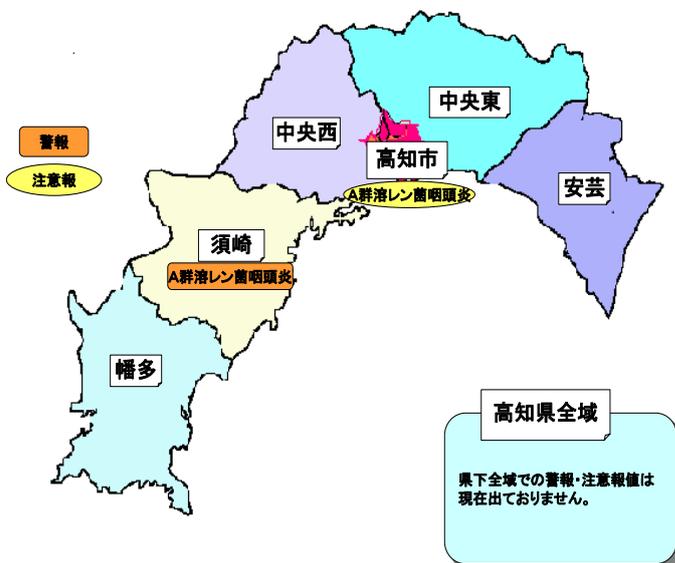
減少



急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	4. 5 0	中央西で減少していますが、安芸、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	3. 3 0	須崎、安芸で急増、県全域、高知市、幡多で増加し、須崎では警報値を、高知市では注意報値を超えています
RSウイルス感染症	→	1. 2 3	須崎、中央西で急減していますが、幡多で急増しています。
インフルエンザ	↘	1. 0 6	須崎、高知市、幡多で急減、県全域、中央西で減少していますが、安芸で急増しています。
水痘	↑	0. 3 0	安芸、須崎で急減、幡多で減少していますが、県全域、中央東、高知市で急増しています。

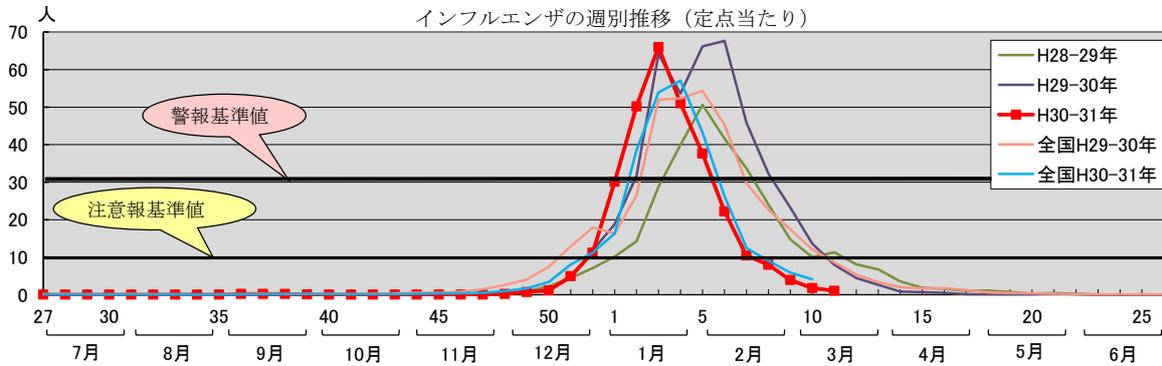
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

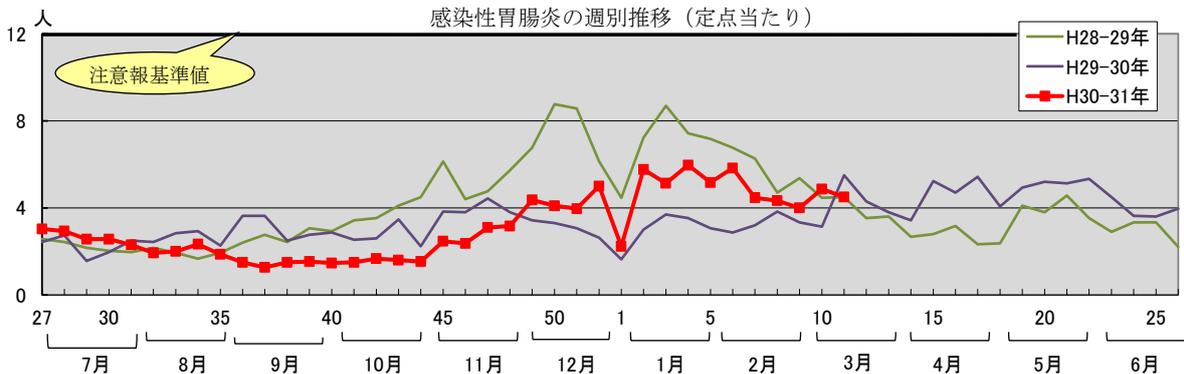
○インフルエンザ 第11週：1.06（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.06（前週：1.79）と減少しています。須崎 1.50（前週：3.50）高知市 1.00（前週：2.25）幡多 0.63（前週：1.38）で急減、中央西 1.60（前週：2.60）で減少していますが安芸 1.00（前週：0.50）で急増しています。



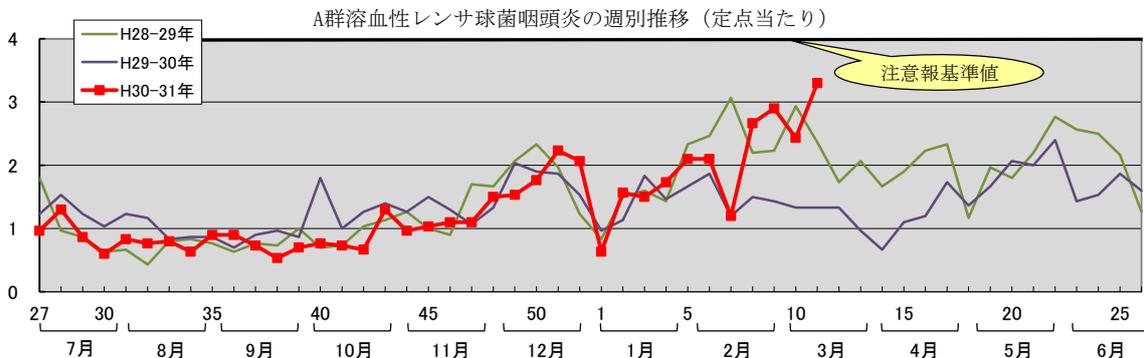
○感染性胃腸炎 第11週：4.50（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.50（前週：4.87）と横ばいです。中央西 2.00（前週：3.00）で減少していますが、安芸 6.50（前週：5.00）須崎 2.00（前週：1.50）で増加しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第11週：3.30（注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり 3.30（前週：2.43）と増加しています。須崎 8.00（前週：3.00）安芸 2.50（前週：1.00）で急増、高知市 4.09（前週：3.00）幡多 2.80（前週：2.20）で増加し、須崎では警報値を、高知市では注意報値を超えています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
11	インフルエンザ	39℃,咳嗽,	35	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
11	インフルエンザ	39℃,	3	女	中央東	Influenza virus A H3 NT
11	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,上気道炎,	6	女	高知市	<i>Streptococcus pyogenes Untypable</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
10	急性気管支炎	38℃,下痢,咳嗽,気管支炎,	1	女	中央東	Parainfluenza virus 3
10	RSウイルス感染症	40℃,咳嗽,気管支炎,	3	男	中央東	Respiratory syncytial virus B

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	24	70歳代 女	中央東
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	6	70歳代 男	高知市
	百日咳	1	40	10~14歳 女	須 崎
		1		10~14歳 女	
		1		40歳代 女	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	ノロウイルス腸炎 1例 (1歳男)
中央東	おひさまこどもクリニック	第10週 カンピロバクター1例 (6歳男) 第11週 カンピロバクター+大腸菌 O-25 1例 (7歳男) 大腸菌 O-1 1例 (6歳女)
	早明浦病院小児科	管内保育園でノロウイルス流行中 兄弟も感染 (1歳男2人、1歳女3人、4歳男)
	野市中央病院小児科	インフルエンザ A型 1例 (14歳女:ワクチン未接種)
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 3例 (9ヶ月女、1歳男女) アデノウイルス 1例 (1歳男) ヒトメタニューモウイルス 1例 (8ヶ月男) ノロウイルス 1例 (1歳男) ロタウイルス 1例 (13歳女)
	けら小児科・アレルギー科	病原性大腸菌 O-25 腸炎 1例 (13歳) ロタウイルス腸炎 1例 (1歳)
	細木病院小児科	ノロ 2例 (10ヶ月女、2歳男) ロタ 2例 (6歳女、8歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑 2例 (1歳女、2歳女) 溶連菌感染症 2例 胃腸炎が多い
須 崎	もりはた小児科	感染性胃腸炎 (ノロ 1例、ロタ 1例) 百日咳 1例 (14歳女) アデノウイルス扁桃炎 1例 (1歳女) RSV 1例 (1歳女) 10w カンピロバクター腸炎 1例 (2歳男)
幡 多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎 9例 (11ヶ月男、1歳女2人、2歳男、2歳女2人、4歳男、5歳女、8歳女)
	さたけ小児科	ヘルペス歯肉口内炎 1例 (1歳男)

★全国情報

第9号（2月25日～3月3日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核352例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症22例

4類感染症：E型肝炎8例、A型肝炎7例、オウム病3例、重症熱性血小板減少症候群1例、デング熱7例
レジオネラ症18例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症21例
急性脳炎7例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症14例、後天性免疫不全症候群6例
侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例
侵襲性肺炎球菌感染症42例、水痘（入院例に限る）6例、梅毒102例
播種性クリプトコックス症4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳237例
風しん112例、麻しん26例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

削除予定：風しん1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症8例、E型肝炎2例、A型肝炎2例、デング熱1例
レジオネラ症5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症12例、急性脳炎7例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒62例
播種性クリプトコックス症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳81例
風しん11例、麻しん2例

.....

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第11週 平成31年3月11日(月)～平成31年3月17日(日)

高知県衛生研究所

定点名	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計)		全国(10週末累計)	
											H30/12/31～H31/3/17	H30/12/31～H31/3/10		
ワイルド	インフルエンザ	4	12	16	8	6	5	51 (1.06)	86 (1.79)	20,454 (4.12)	13,549 (282.27)	1,324,332 (267.70)		
小児科	咽頭結膜炎		1	2			2	5 (0.17)	4 (0.13)	1,031 (0.32)	48 (1.60)	9,902 (3.13)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	13	45	6	16	14	99 (3.30)	73 (2.43)	9,079 (2.86)	664 (22.13)	72,220 (22.86)		
	感染性胃腸炎	13	45	47	6	4	20	135 (4.50)	146 (4.87)	19,256 (6.07)	1,568 (52.27)	189,269 (59.91)		
	水痘		5	3			1	9 (0.30)	4 (0.13)	1,058 (0.33)	80 (2.67)	10,505 (3.33)		
	手足口病							()	1 (0.03)	432 (0.14)	13 (0.43)	4,112 (1.30)		
	伝染性紅斑			5	2			7 (0.23)	7 (0.23)	1,715 (0.54)	96 (3.20)	21,043 (6.66)		
	突発性発疹	2	2	2		1	1	8 (0.27)	13 (0.43)	1,157 (0.36)	81 (2.70)	9,716 (3.08)		
	ヘルパンギーナ							()	1 (0.03)	66 (0.02)	5 (0.17)	520 (0.16)		
	流行性耳下腺炎							()	()	342 (0.11)	4 (0.13)	2,823 (0.89)		
	RSウイルス感染症		2	16	1	1	17	37 (1.23)	34 (1.13)	1,471 (0.46)	182 (6.07)	12,918 (4.09)		
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	7 (0.01)	()	63 (0.09)		
	流行性角結膜炎							()	4 (1.33)	306 (0.44)	18 (6.00)	4,317 (6.20)		
産科	細菌性髄膜炎							()	()	9 (0.02)	()	102 (0.21)		
	無菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	()	102 (0.21)		
	マイコプラズマ肺炎			6				6 (0.75)	2 (0.25)	69 (0.14)	30 (3.75)	958 (2.00)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	1 (0.13)	1 ()	2 (0.25)	16 (0.03)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			3				3 (0.38)	2 (0.25)	135 (0.28)	18 (2.25)	644 (1.34)		
計	24	80	145	23	28	60	360			56,596	16,358	1,663,562		
小児科定点当たり人数	(11.00)	(10.81)	(11.89)	(6.60)	(12.50)	(11.63)	(11.06)				(373.64)			
前週	17	86	160	34	30	51		378						
小児科定点当たり人数	(7.50)	(11.76)	(12.79)	(9.60)	(11.50)	(9.38)		(11.20)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	保健所 疾病名	第11週							計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計)		全国(10週末累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/12/31～H31/3/17				H30/12/31～H31/3/10			
ワイルド	インフルエンザ	1.00	1.09	1.00	1.60	1.50	0.63	1.06	1.79	4.12	282.27	267.70			
小児科	咽頭結膜炎		0.14	0.18			0.40	0.17	0.13	0.32	1.60	3.13			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1.86	4.09	2.00	8.00	2.80	3.30	2.43	2.86	22.13	22.86			
	感染性胃腸炎	6.50	6.43	4.27	2.00	2.00	4.00	4.50	4.87	6.07	52.27	59.91			
	水痘		0.71	0.27			0.20	0.30	0.13	0.33	2.67	3.33			
	手足口病								0.03	0.14	0.43	1.30			
	伝染性紅斑			0.45	0.67			0.23	0.23	0.54	3.20	6.66			
	突発性発疹	1.00	0.29	0.18		0.50	0.20	0.27	0.43	0.36	2.70	3.08			
	ヘルパンギーナ								0.03	0.02	0.17	0.16			
	流行性耳下腺炎									0.11	0.13	0.89			
	RSウイルス感染症		0.29	1.45	0.33	0.50	3.40	1.23	1.13	0.46	6.07	4.09			
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.09			
	流行性角結膜炎								1.33	0.44	6.00	6.20			
産科	細菌性髄膜炎									0.02		0.21			
	無菌性髄膜炎									0.02		0.21			
	マイコプラズマ肺炎			1.20				0.75	0.25	0.14	3.75	2.00			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								0.13		0.25	0.03			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			0.60				0.38	0.25	0.28	2.25	1.34			
計	11.00	10.81	11.89	6.60	12.50	11.63	11.06				373.64				
前週	7.50	11.76	12.79	9.60	11.50	9.38		11.20							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
 〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
 TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869
 この情報に記載のデータは2019年3月18日現在の情報により作成
 しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあ
 りますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)：平成31年第11週
 グラフダウンロード：[第11週](#)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第11週)

